3.11のことばと歌

ことばが歌になり、歌が記憶をつなぐ。

語られるのは、被災地に生きる人、生きたかった人の思い。歌われるのは、その声から生まれた詩と音楽。こころの深みに届く合唱の響きをお聴きください。

- 被災体験者へのインタビュー
- 詩の朗読
- 合唱曲の演奏
- 参加者のみなさんとの対話

震災を知らない若い世代や、震災後に宮城へ転入された方も大歓迎。

11月16日(日) 18:00～19:30
エル・パーク仙台 6階 スタジオホール

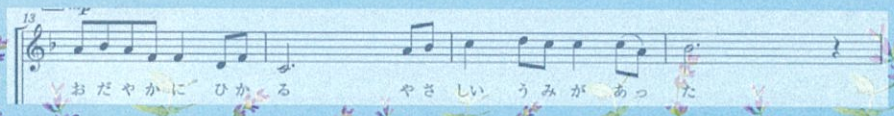
参加費:無料 定員:80名(申込み不要、先着)
ゲスト:レクイエム・プロジェクト仙台合唱団有志 ほか
主催:レクイエム・プロジェクトみやぎ
https://www.311singing.net
問合せ:info@311singing.net

※みやぎ震災伝承連携推進事業補助金助成

11/16

男女共同参画推進
せんだいフォーラム2025

<託児がつきます>
●対象：６か月以上小学１年生まで（しょうがいのあるお子さんや小学２年生以上のきょうだいがいる場合はご相談ください）
●託児利用料：お子さん1人あたり300円
●託児申込締切：１１月６日（木）先着順、定員になり次第締切。
●託児問合せ・申込先：エル・パーク仙台 管理事業課 事業係 TEL022-268-8301



失われた夢も、継ぐものがいる限り

若い力に託したい思いが新たな希望に

3.11を歌う

2025年11月

『なつかしい未来へ』は、４曲からなる合唱組曲。筆者が河北新報時代の２０１１年３月以来、取材を続けてきた東北の被災地で出会った人々や情景から詩を編みました。４編が生まれた原風景を旅しながら、題名の由来をお伝えしましょう。

原発事故で無人となった街に満開の桜＝2012年4月

「この世の果て」のような風景に

２曲目は「再会」。詩の原風景は、原発事故の翌年春、全住民が避難し無人となった南相馬市の小高でした。

取材中に迷い込んだ場所は、桜の花で一色の異世界。きっと毎春、近隣の人々でにぎわったろう広場は舞い散った薄紅色の花びらで埋め尽くされ、薄暗い空の下を覆うように満開の枝々。

妖しいばかり、恐ろしいばかりの美しさで、生きて見る者が誰もいない、「この世の果て」のような風景に戦慄を覚えました。

夢にも命にも終わりはない

震災の年に小学生、園児だった世代が、新しい伝承者に育つのです。

集会所で出会う年配の体験者と、孫のような若者の対話を傍らで見聞していると、心がつながり、元気や喜びが湧き、伝承を越えたものが生まれるのを感じます。

震災で失われた夢、亡くした人、断ち切られた絆、還らぬふるさと…

それらが目の前によみがえり、若い力に託したい思いが新たな希望になるのを感じます。

誰かがそれを受け継ぐ限り、夢にも命にも終わりはないのです。

（寺島英弥）

続きは←

レクイエム・プロジェクト仙台2026

2026年5月3日（日）　電力ホール

指揮／佐賀慶子（仙台）、寺沢希（広島）、石川真奈美（きみつ）、上田益（東京）
ソプラノ／小野綾子　アルト／劉賢（カウンター・テナー）
ピアノ／菅原紀子、土井譲、堀内由起子、筒井未友紀
オーケストラ／レクイエム・プロジェクト仙台管弦楽団
合唱／レクイエム・プロジェクト仙台合唱団ほか全国の有志
仙台市立長町中学校合唱部、同五橋中学校合唱部、きみつ少年少女合唱団